

【緑地を楽しむ本】

『チューリップ きゅうこんとたね』月刊かがくのとも 636号

山根悦子さく

福音館書店



チューリップの球根は秋に植えて、冬の寒さを乗り越えさせることで、春にきれいな花を咲かせます。球根には養分や芽になる部分だけでなく、

葉や花になる部分もちょうと備わっています。そんな球根は左右対称ではなく、片側が大きく膨らんでいます。

葉を出したチューリップの内側には蕾が育ち、球根の鱗片の隙間には新しい球根が育ち始めています。

花が咲いた後、葉も茎も枯れてしまいます。

球根を掘り返すと新しい球根ができています。新しい球根にはまだ芽がありません。夏から秋にかけて球根の中で芽が育っていくのです。

また、雌蕊に種ができることがあります。300くらいもできます。種をまくと、小さな球根ができて、それを掘って植えると2年目の球根ができます。こんな風にして掘っては植えるを繰り返すと、5年目の球根に花が咲きます。種から花が咲くには6年もかかります。

こんなチューリップの不思議が、美しい絵とともによく分かる絵本です。

(齋藤好子)